



怪盗と判官



●大映アトロン(昭和30年)

## 山根貞男のお楽しみゼミナール



「怪盗と判官」の見どころは、なんといっても市川雷蔵と勝新太郎の本格的な競演である。

この映画は一九五五年の大映作品だが、周知のように二人は前年の「花の白虎隊」でそろってデビューした。そのあと、兩人とも大映オールスター作品「薔薇いくたびか」に出ているが、共演といえる場面もなく、「踊り子行状記」でふたたび本格的に顔を合わせると、つまり「怪盗と判官」は三本目の競演ということになる。

市川雷蔵は「逢山の金さん」を颯爽と演じるが、この年、少し前に「次男坊判官」でも同じ役をこなした。勝新

太郎は鼠小僧に扮し、得意の歌も聞かせる。いかにも二人にぴったりの配役であり、サービスマン調の若々しい時代劇ということができる。

この映画はマキノ正博監督「弥次喜多道中記」(一九三八)のリメイクである。元版では逢山金四郎を片岡千恵蔵、鼠小僧を杉狂児が演じた。ホンモノの弥次さん喜多さんは歌手の楠木繁夫とディック・ミネ。そこで、歌がふんだんに出てきて、オペレッタふう時代劇の趣向になっていた。

それに對し、大映版の眼目は、あくまで新スター二人を明治時代劇のなかで輝かせることにある。冒頭、片やひ

よつとこの面、片や娘かぶり出会つて、まもなく金四郎と鼠小僧がたがいに素姓を知らぬまま旅をするというのは、小国英雄の傑作アイデアだが、市川雷蔵と勝新太郎がそれをじつに楽しそうに演じていて、見ているこちらも楽しい気分になってくる。

二人は同年の生まれで、このとき二十四歳。芝居の舞台で、馬の尾」に扮して大騒ぎをやらかすシーンなど、若い茶目っ気が感じられる。雷蔵も勝新もやがてユーモアの一面を多く出すようになるが、ここに初期の姿がある。

お雪の清水谷蔵は、前年、清水谷洋子の名で東京映画からデビュー後、大映に移り、これで再出発した。この前後、長谷川一夫・雷蔵・勝新の競演する「花の渡り鳥」にも出ている。



◎本商品は保存状態から最良の状態を製作しておりますが、経年公開時より長い年月を経ておりますので、一部写真にはお見苦しい場面もございます。あしからずご了承ください。

### ■キャスト

逢山金四郎 市川雷蔵  
 鼠小僧 勝新太郎  
 お雪 清水谷蔵  
 おれん 阿井美千子  
 お島 藤谷川裕見子  
 弥次喜多 榎 健一  
 喜多八 若田キートン  
 昌明七郎 市川小太夫  
 逢山河内守 藤川良介  
 京原可代 荒木 忠  
 村前善太郎 大塚 一公  
 手品師 上田 一  
 尾上安八 尾上 栄五郎  
 岡崎玄太夫 水野 浩  
 雲田 清水 明  
 沖 清 明  
 成瀬 昭  
 半次 越川 一  
 宿の幸上 大原 四郎  
 千太 大岡 八郎  
 三郎 瀧口マサオ

### ■スタッフ

製作 ● 酒井 敏  
 企画 ● 浅井 三郎  
 脚本 ● 小国英雄  
 監督 ● 田口 敏  
 撮影 ● 今井 ひろし  
 録音 ● 林 士太郎  
 照明 ● 白谷 勲次  
 音楽 ● 大友 柳 三郎  
 美術 ● 菊池 隆平  
 装束 ● 白井 洋 彦  
 和装 ● 中 利 生  
 編集 ● 藤 田 光一  
 技術 ● 渡辺 謙太郎  
 美術 ● 水谷 秀太郎  
 背景 ● 小宮 秀三郎  
 衣裳 ● 黒沢 好子  
 髪置 ● 飛本 栄一  
 TND09727  
 昭和30年度作品  
 89分・モノクロ